

規制改革推進会議
投資等ワーキンググループ
ご説明資料

2020年1月30日

マイクロモビリティ推進協議会

目次

1. 電動キックボードの社会的意義
2. 海外の普及状況
3. 海外の法整備
4. 日本の法律上の位置づけ
5. これまで実施してきた実証実験
6. 業界の自主的取組について
7. 今後の予定

マイクロモビリティが普及した未来の社会



(参考) 電動キックボードとは

二輪電動キックボード



- 2017年にシェアリング事業が登場し、2年間で世界中に広まった電動2輪モビリティ
- 最高時速20km/h程度
- 自転車と比較して半分程度の体積(自転車5台駐輪するスペースに10台駐輪可能)
- またぐ必要がないため、スーツやスカートでも簡単・快適に乗ることができる

三・四輪のものも存在

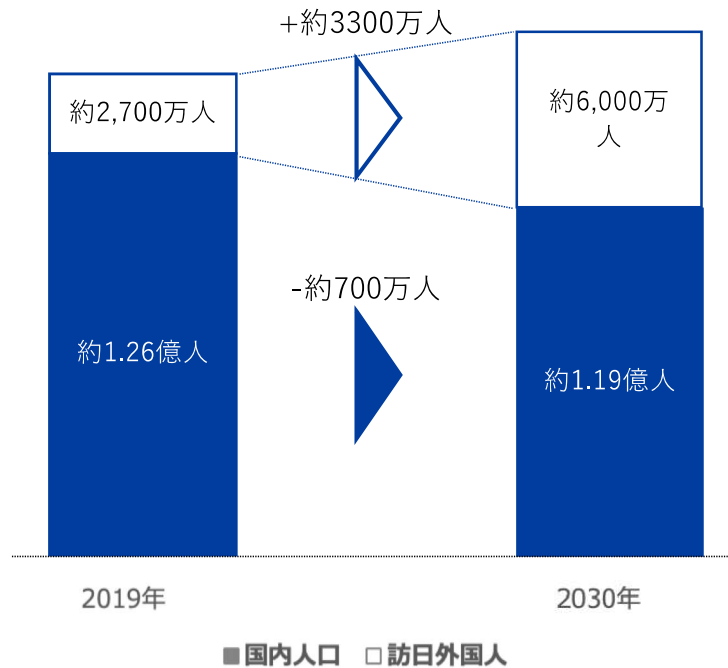


- 電動駆動で車輪が3-4輪であるため横に倒れる心配のない低速電動モビリティ
- 最高時速6~15km/h程度
- 荷物を入れられるカゴ付き
- またぐ必要がないため、スーツやスカートでも簡単・快適に乗ることができる

1. 電動キックボードの社会的意義(1/2)

急増するインバウンド

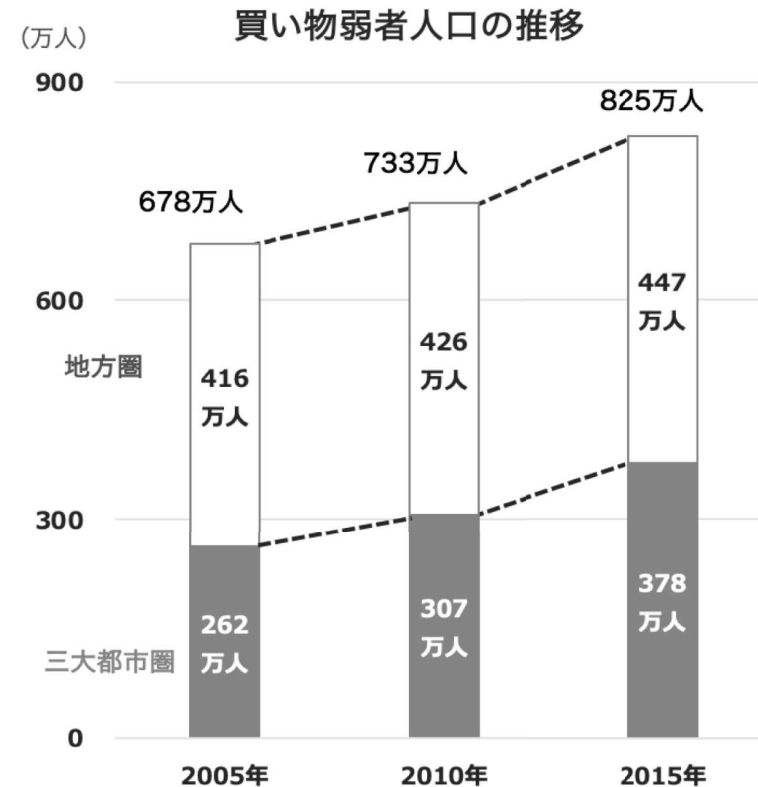
急増することが予想されているインバウンドの交通手段となる。海外ですでに普及しており、電動キックボードがすでに日常に溶け込んでいるインバウンド旅行者にとって、電動キックボードは既存交通を代替する短距離移動手段となる。



参考：『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』、
『2017年11月7日 日本政府観光局（JNTO） - 地域インバウンド促進サイト』

高齢者、買い物弱者の増加

買い物難民は年々増加し800万人を超えている中、高齢者による事故が多発している。買い物などの短距離移動においては、体力の衰えがある方も乗れる電動モビリティが必要。電動キックボードは、買い物難民や高齢者事故を軽減させることができる。※二輪電動キックボードは一般的に若者がメインで利用。



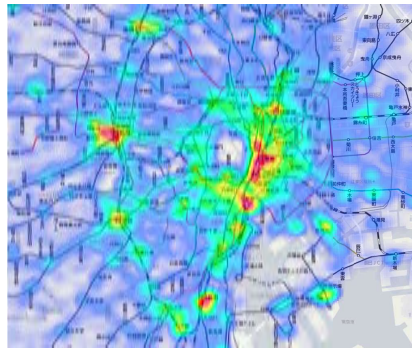
これに伴い、高齢者の運転による事故も増加している。

1. 電動キックボードの社会的意義(2/2)

まちの回遊性の向上

主要駅の付近や沿線状に人口が密集していることがわかる。日本は電車が発達しすぎており、駅から距離が遠いエリアの店舗や不動産へ人が回遊しにくい状態。

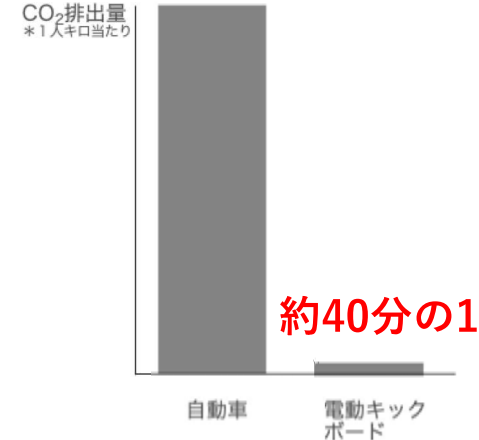
徒歩10-15分移動に適した電動キックボードがインフラとなることで、まちの回遊性を向上させ、店舗や住宅の可能性が最大限活かせる状態を実現することができる。



参考：混雑レーダー

環境問題への貢献

電動キックボードのCO2排出量は自動車より大幅に小さい。ラストワンマイルの移動手段が自動車から置き換えれば、環境問題に大きく貢献。**電動キックボードの1人キロあたりのCO₂の排出量は自動車の約40分の1**



ラストワンマイルの移動範囲の拡大

電動キックボードにより、人の移動範囲が広がる。これにより、駅やバス停から離れた土地の価値を向上、商店街の売り上げ増加、空き家対策などにも繋がり得る。MaaSの実現にも貢献。

